

『胃瘦について正しく理解してもらいたい そんな講義をしています』

気がついたら7月になり、2023年は半分が過ぎていました。4月1日から新しい職場に入り、忙しくしていたら、もう、半分が過ぎていた、そんな感じ。

7月の前半は雨、大雨、豪雨。特に九州北部と秋田県は豪雨で大変でした。中旬から後半は「危険な暑さ」「熱中症警戒アラート」。40℃を超えた地点はないのですが、39.8℃が最高。しかし、これは日陰での気温。炎天下ではそんな生易しい暑さではありません。「暑い(体感)」ではなく「空気が熱い」と表現すべきだと思います。中国・新疆ウイグルやアメリカのデスバレーでは気温が50度を超えている、冬である南半球のアルゼンチンでは氷河が溶けているとのこと。地球はどうなるのでしょうか。

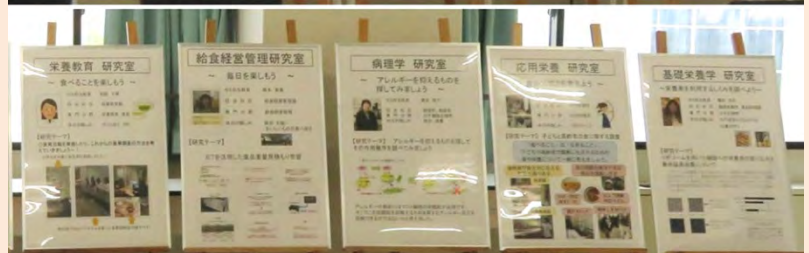
高校野球予選が全国各地で行われ、8月6日から甲子園大会。エアコンが効いているドーム球場でやらせたい。甲子園球場が高校野球で使われている期間、阪神タイガースは長期ロードです。しかし、岡田監督は長期ロードを歓迎ムード。「久しぶりに涼しいところのできる、それが1番」と言っています。高校球児も涼しい所で野球をやらせたい、そう思いませんか？

7月は何をしたんだろう、と振り返ると、7月1日に群馬県高崎へ講演に行ったっきりで、地元から外へは出ていません。大学での講義とその準備、そして、前期試験を終えた、です。7月は大学のオープンキャンパスが日曜日に2回。もちろん、2回とも出席しました。教官や学生さんは、出席する日が決まっています、役割分担があるのです。それとは無関係なのは私だけで、さらに言うと、4月23日、5月28日、6月18日、7月9日と23日、5回とも出席したのは井上善文だけ、だそうです。暇ではありません。ちょっとでも役に立ちたいのです。教官の方々や事務の方々、学生さんともいろいろ話ができますから。

7月1日は、PICCの講演とIPエコーを使ったハンズオンセミナーのために群馬県高崎へ。新幹線のぞみで東京へ行き、北陸新幹線に乗り換えて高崎へ。しかし、この間、何をしていたのか、記憶がないのです。晩飯はどうしたんだっかなあ。駅弁を食べたはずなんだけど、どんな弁当を食べたんだっかなあ、と悩んでいたら、思い出しました。大学の前のバス停から千里中央行きバスに乗ったのです。初めて。雨の日でした。遠くへ行くのに、折り畳み傘ではなく、POLOの高級傘を持って行きました。約20年前、阪大から日生病院へ通勤した時に送別の品としてもらった傘。20年間も使ってなかったのに、なんとなく、大雨だったから持っ



↑ オープンキャンパスは大事な仕事です。学生勧誘がこんなに大事なことになるとは知らなかった。どの大学もやっているとのこと。テレビCMや、電車や新聞に広告を出している大学もあります。ラジオ番組のスポンサーになっている大学もあります。競争だそうです。本当、知りませんでした。



↑ オープンキャンパスの時の談話室では、各教官の活動内容が展示されています。いろいろ、がんばっておられます。これを、親御さんと一緒に見て、興味をもって来て、当大学へ来てほしい、なのです。

で行きました。そして、千里阪急百貨店の食料品売り場で、いつもの大きな卵焼き弁当と、おにぎり 2 個を追加で買ったのでした。弁当を食べて、満腹になって寝たんだ。高崎のホテルは、いつものホテルココグラン高崎。なんか、なつかしい。翌日は、伊東さん、下田さん、星野さんに、「吹割の滝」へ連れて行ってもらいました。実は、前日、「高崎の板垣さんがセミナー前にお会いしたいと言っています」との伝言。「板垣さん？そんな人、知らんぞ！」だったのです。伊東さんが板垣さんになっていたのです（個人情報過ぎ？）。「吹割の滝」は「東洋のナイアガラ」と呼ばれていて、ちょうど大雨の後で、結構な迫力でした。POLO の高級傘を持って行ってよかった。昼飯は、直前の「ケンミンショー」では「群馬県でかつ丼というソースかつ丼」だったので、「ソースかつ丼」を食べなくては、でしたが、群馬県全体がソースかつ丼、ではなかったのです。桐生や前橋周辺だけだそうです。ケンミンショーは誇張し過ぎ！吹割の滝のあたり、沼田には「とんかつ街道」があります。なのでトンカツを食べました。小川先生の司会で、私が PICC と IP エコーについて講演した後、ハンズオンセミナー。医師の参加も多く、在宅の看護師さん、そして管理栄養士さんに看護師さん、みなさん熱心でした。非常に有意義なセミナーとなりました。高崎総合医療センターの研修医ががんばっていました。

7 月 17 日(月曜日、海の日)は臨床医学Ⅰの前期試験。祝日なのに。7 月 28 日は臨床栄養学Ⅱの前期試験。どちらも、毎週実施している小テストと同じ問題を出しました。全部記述式。用語などを書く問題。全部で 130 ほどの用語を記述しなければなりません。医学も栄養学も、まずは覚えなさい、用語を覚えなさい、という教え方をしています。臨床栄養学Ⅱは 90 分授業が 15 回なのですが、経腸栄養について 6 回講義しました。ほとんど教科書とは関係なく、井上流スライドを使っている講義。こんなにたくさん経腸栄養について系統的な講義を受けている人はいないのでは？胃腸問題については突っ込んだ講義をしたので、学生達の印象はものすごく強かったようです。学生だから、というつもりはなく、専門的な講義をしました。消化器内視鏡学会のランチョンセミナーの講演ビデオもそのまま見せました。きっと、卒業して臨床の現場に出た時、私の講義内容が役に立ったと思ってくれると・・・期待しているのです。



↑ オープンキャンパス：エレベータで栄養学部のフロアに着くと、いろんな食材モデルが展示されています。何を食べたかを決めてプレートに載せると、食べた栄養素の量、種類などが計算されます。その結果を説明するのは、管理栄養士の仕事として大事だと理解してもらうためです。私にはできません。その代わり？私は、ステーキとサラダとパンを選んで判定してもらいました。意外と、健康的な選択だそうです・・・。



↑ 大学の構内で卒業式の着物の展示も行われています。卒業袴レンタルです。試着、申し込み、です。袴か。私は剣道部だったので、袴は知っていますが、卒業袴ねえ。高いんですね。いろいろなレンタルプランがあります。記念写真もプランに入っているとのこと。知らなかった！！ほとんどの学生さんが申し込むのだそうです。先生も卒業式に出てくれるんでしょう？これも初めての経験になります。



↑ 大学の朝の通学の時、学生さん達のほとんどは日傘を差して来ます。当然ですよ。暑い、熱い、アツイ、のですから。それに、日焼けもよくありませんから。

ゼン先生：この暑いのに、アスリートががんばっていますね。

小越先生：大谷翔平だな。すごすぎる。異次元だ、宇宙人だ、なんて言っているやつもいる。

ゼン先生：確かにそうです。ピッチャーとして9勝、1安打完封、その30分後に打者として連続ホームラン。2位に10本以上の差を付けて現在ホームラン王。信じられない、ですよ。

小越先生：それに、男前、背も高く、足も長くてカッコいい、性格も良い。浮いた話もない。天は二物を与えず、なんてもんじゃないな。5物も6物も与えている。不公平だ。

ゼン先生：本当に。ホームラン王にもなって欲しいですね。アメリカの国技で日本人がホームラン王。ベーブルースを完全に抜いています。ベーブルースは盗塁はできなかったし。

小越先生：走る、盗塁する、すごいなあ！

ゼン先生：ところで、大相撲は名古屋場所で豊昇龍が優勝して大関昇進を決めました。

小越先生：足腰が強そうな、運動神経抜群な力士だと見ていたから、まあ大関になるのは当然だと思っていたよ。

ゼン先生：19歳の伯桜鵬が最後まで優勝にからみました。これからは楽しみです。

小越先生：そうだな。久しぶりに日本人の大器が出現したという感じだ。

ゼン先生：でも、日本の国技の相撲界がモンゴル出身力士達に圧倒されてしまっているんです。彼らはがんばっている、りっぱだ、そう思います。日本の文化に馴染み、日本語もペラペラだし。

小越先生：本当だ。見た目も変わらないからな。

ゼン先生：でも、日本人力士ががんばれ、寂しいじゃないか。大関、横綱になる日本人力士は出てこないのか、そんな気がするんですよ。

小越先生：ちょっと了見が狭いかもしれないぞ。

ゼン先生：そうかもしれませんが・・・。

小越先生：君のことだ。源義経がモンゴルへ渡ってジンギスカンになってモンゴルに相撲を広めた、その結果、現在のモンゴル出身力士達が活躍しているんだ！？と、自分を納得させようとしているんじゃないか？

ゼン先生：凶星です。とにかく、日本人力士ががんばれ！なんです。

小越先生：8月は高校野球甲子園大会だからスポーツ、スポーツで大変だな。

ゼン先生：危険な暑さです。高校球児達、快適に野球をさせてやりたい。

小越先生：本当だ。テレビで、昼間は出歩かないようにして



↑東洋のナイアガラ、吹割の滝、です。結構、雄大な感じですよ。ちょうど、大雨の後だったので、より水量が多かったのだと思いますが。危険な流れでもありまして、「ここから先には行かないように」との境目も決められているし、見張り番もいますし、放送もあります。中国語の放送もあったので、かなりの中国人がこんなところにまで観光に来ているのですね。本当、いい物を見せてもらいました。本当のナイアガラの滝、行ったのは30年以上前のことです。



↑高崎総合医療センターの伊東さん（板垣）、下田さん、星野さんに案内してもらいました。みなさん、カラフルな傘でした。だから、私もPOLOの高級傘を持って行ったのは正解でした。

ください、危険な暑さです、なんて言っているのに、高校野球は「灼熱の太陽の下で」だもんな。

ゼン先生：その通りです。開催期間を秋に移動する、ドーム球場でやる、なにか対策を講じて欲しいですね。

小越先生：熱中症で倒れたり、筋肉が痙攣して動けなくなる選手もいるし、応援団だって大変だから。

ゼン先生：何十年も前ですが、甲子園大会の救護班で仕事していましたから、そういう現状はかなり知っているんです。長時間バスで応援にやってくる、そのまま救護室で点滴している人、たくさんいました。今はもっと多いんじゃないでしょうか。

小越先生：そう言っていたな。

ゼン先生：いい思い出です。テレビにも映りました。1塁ベースで肩関節脱臼で倒れた選手の診察に行った時です。父がテレビを見ていて、私が出てきたのがわかって、親戚のおばさんに電話したら、もう、私の姿はなくなっていたのです。まあ、当然ですが。

小越先生：なるほど。君も甲子園大会を楽しんでいたんだな。

ゼン先生：そうです。それから・・・。

小越先生：もういいよ。今回の話題はどうするんだ？君のスポーツ談義に付き合っていると、今回はずっとこの話で終始してしまいそうだ。

ゼン先生：確かに。しかし、読んでくれている人たちは、スポーツ談義のほうが面白いかもしれません。

小越先生：ばかなことを言いなさんな。スポーツ談義なら、もっと面白くしゃべる人達がいる。

ゼン先生：そうですね。我々は臨床栄養の話題で会話するしかありませんよね。

小越先生：もちろんだ。そのための「ゼン先生の栄養管理講座」なんだからな。前は PICC の話だった。

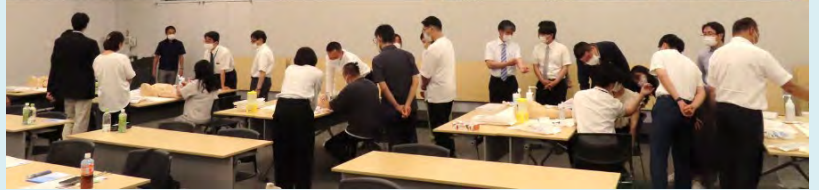
ゼン先生：実は、前は、「関西 PEG・栄養とリハビリ研究会」を開催したので、胃瘻についての会話にしたかったんです。でも、なんとなく、PICC を取り上げることになったんです。

小越先生：それはそれでいいじゃないか。そうすると、今回は胃瘻だな。

ゼン先生：そうですね。実は、千里金蘭大学の学生達に、本格的に胃瘻の現状について講義しました。

小越先生：そうかそうか。

ゼン先生：臨床栄養学Ⅱで、経腸栄養について、90分授業で6回、講義しました。



↑なんか、いわゆる、手取り足取りのハンズオンセミナーです（足は取りませんが）。実際にエコーの持ち方を示し、いろいろなコツを示し、やって見せ、やらせてみて、ここはこうすればいいのだ、と解説。これが本当のハンズオンセミナーです。シミュレーターが6台、IPエコーが12機、これだけ揃えたら、本当にいいセミナーになりますよ。



小越先生：へええ。栄養学部の学生に、経腸栄養について6回も講義したのか。

ゼン先生：はい。

小越先生：そんなの、カリキュラムにはないんじゃないか？

ゼン先生：そこまで経腸栄養について講義する必要はない、となっているように思います。栄養学部の学生用の臨床栄養学の教科書をいろいろ見ると、静脈栄養・経腸栄養についての記載はほんのちょっとですから。

小越先生：だろう？いいのか、そんなに経腸栄養に時間を割いて。

ゼン先生：どうなのでしょう。後期の臨床栄養学Ⅲでは、同じくらいの時間を使って静脈栄養の講義をします。

小越先生：管理栄養士の卵にそんなに詳しく静脈栄養の話をするのか。必要か？

ゼン先生：さあ、どうでしょう。無駄ではないと思っています。経腸栄養と静脈栄養についての知識を増やしておいて、残りの講義は、症例検討をする予定です。

小越先生：へええ。それって、いろんなセミナーでやろうとしている内容じゃないか？NST 専門療法士のセミナーより高度な内容になってしまうんじゃないか？

ゼン先生：そうですね。そうかもしれません。

小越先生：専門的過ぎるんじゃないか？

ゼン先生：臨床栄養の専門家を育てるのが目的です。卒業して、現場に出てすぐに活躍できる管理栄養士になって欲しいんですが、間違ってます？

小越先生：どれだけの学生が君のその方針に付いてきてくれるかが、ちょっと心配だ。

ゼン先生：それなりの数の学生が付いてきてくれると信じています。

小越先生：まあいいだろう。君の方針だから。

ゼン先生：その、胃瘻の話ですが。私の持論。胃瘻バッシングは胃瘻問題ではない、栄養管理の適応の問題だ。胃瘻を造設すると食べられなくなる、これは完全な誤解。延命治療？そのように容易に判断できる患者さんには胃瘻を造設する必要はないし、栄養管理の適応かどうかを判断することが優先問題だ。しかし、栄養障害に陥っていて、栄養管理をすれば回復しそうと思ったら、長期症例になりそうだったら、胃瘻を造設してきちんと栄養管理を実施してみるべきだ。胃瘻が適応なのに、経鼻胃管でいい、CV ポートのほうが診療報酬が高いから静脈栄養を実施する、これは正しい判断ではない。胃瘻バッシングの結果、



↑セミナー終了後、参加者全員での記念写真。和気藹々と、非常に楽しい、有意義なハンズオンセミナーでした。みなさん、それぞれ、予定した手技を、真剣に実践していました。



↑なんか、独特の雰囲気のとんかつ屋さんに入りました。伊東さんが食べたのがソースかつ丼です。でも、これは群馬らしいソースかつ丼ではないとのこと。私は、ふつうのローストンカツでした。うまかった。でも、正直、群馬らしいソースかつ丼を食べたかったなあ。



↑群馬県です。高崎です。新幹線の駅の売店です。ダルマ、達磨、だるま、です。私？たくさん持っているの、もう買いません。

医療者側に「家族が嫌がるんだから経鼻胃管でいい」と考える、きちんと説明しない、そんな傾向が出ている。胃瘻を造設すると食べられないと思っている医療者も多くなっている、これも問題だ。そんな話をしました。

小越先生：確かに、それが正しい判断だと思うが、学生にはレベルが高すぎるんじゃないか？

ゼン先生：そういう心配もしました。でも、学生にとって、非常にインパクトが大きい、印象深い講義だったようです。臨床栄養学Ⅱの試験の最後に講義の感想やこれからどうして欲しいか、などについて書いてもらったんですが、いろいろ、書いてくれ

ていました。特に胃瘻問題については。

小越先生：たとえば？

ゼン先生：講義のおかげで「胃瘻」と漢字で書けるようになりました。

小越先生：オレが真面目に質問しているのに、なぜ、「胃瘻の漢字が書けるようになりました」が最初の答えなんだ？

ゼン先生：すみません、そういう困った性格なので。

小越先生：仕方ないなあ。君を育てた親の顔が見たいよ。

ゼン先生：よく言われます。すみません。でも、胃瘻の漢字が書けるようになるって、不真面目ですか？

小越先生：不真面目とは言わないが・・・。

ゼン先生：気分を変えて、ですが、「胃瘻について詳しい講義を聞くことができたため、今までの胃瘻のイメージは間違っていたこと、胃瘻を有効に用いれば健康な生活を送り、QOLを向上させることができることがわかった」

小越先生：なるほど。ちゃんと理解してくれているな。

ゼン先生：「経鼻胃管でしんどい思いをするより胃瘻のほうがずっと良いと思った」

小越先生：その通りだ。

ゼン先生：「胃瘻の大切さがよくわかり、現在の世の中の胃瘻に対するイメージを変えていきたいと思った」

小越先生：すばらしい。これからが楽しみだ。

ゼン先生：ちょっと長いんですが「正しい情報を得なければならないという重要性を学ぶことができた。家族だけでなく、患者さん自身も胃瘻は悪であると誤解していることも知った。これらはテレビの情報、SNSの情報、ネットの情報、本の情報を鵜呑みにしているためである。その情報がすべて正しい、みんなが言っているから正しいと思こんでいるのは良くないと考える。まず、私達が正しい情報を得て、それを伝えるのが医療従事者としての役目であると思う。」

小越先生：いやあ、驚きだ。拍手だ。居眠りしている学生がたくさんいると、嘆いていたのに。こんなにちゃんと受け止めている学生がいるって、ちょっと感動している。

ゼン先生：でしょう？私の講義も、まんざら無駄ではないでしょう？

小越先生：そうかもしれないなあ。



↑下の段の↓部分に白いものが見えます（この写真では見えません）。それを、デジカメで拡大すると、上の写真の塔でした。PLの塔で、ここから36.7kmの位置にあります。。



↑私の部屋は南向きなので、街の景色が見えます。北向きの景色がこれです。山もいいなあ、そんな感じです。

胃瘻が適応だと判断したら・・・

- 胃瘻の方が優れているという説明・納得させる**能力と熱意**が必要
- 医療従事者自身が 胃瘻に関する**理解度**が低い
- 胃瘻を造設すると口から食べられなくなると**誤解**している医療者も多い

- ✓ **熱意**をもって、きちんとした考え方で説明する
- ✓ しっかり勉強しなければ、患者に寄り添えない
- ✓ **経鼻胃管**でもいいのかとあきらめない

- PEG：経腸栄養を実施するための**準備**にすぎない
- PEGがきちんと実施できたら経腸栄養という**治療**が始まる

- いつまでも PEG PEG と言っているが
- **PEG**は終わった瞬間に**胃瘻**になる
 - **PEG**が終わった瞬間に**治療**が始まる

ゼン先生：こんな感想もありました。「先生の講義を聞いた後、亡くなった祖父はどこから栄養を摂っていたのかと父に聞くと、鼻からだったそうです。もし胃瘻を造設していたら、もう少し長生きできたかもしれないと思うと、いたたまれない気持ちになりました。胃瘻の必要性、有用性がもっと世間に知れ渡って欲しいと思いました。」

小越先生：胃瘻の意義を実感してくれているんだな。

ゼン先生：また別の学生からですが、「おじいちゃんは亡くなる前、胃瘻で栄養を入れていました。おじいちゃんはアンパンが食べたいとずっと言っていました。でも、胃瘻だから何も食べてはいけないと思っていて、がまんしなくては、と私はおじいちゃんに話していました。食べてもよかったんだ。誤解していた。おじいちゃんに申し訳ないことをしたと思いました。もっと早く先生の講義を聞きたかったです。」

小越先生：なるほど。非常に大事な感想だな。

ゼン先生：正直、こんな話をしても、受け止めてくれる学生がどれだけいるんだろう、と思っていたんです。確かに、寝ている学生もいますから。でも、講義中の反応は悪いけど、こんな風に受け止めてくれているんだと思ったら、これからもこういう話をしようと思うようになっています。

小越先生：専門的過ぎるなんて、ちょっとは心配していたんじゃないか？

ゼン先生：そうなんです。かなり。でも、大学生なんだから、理解してくれるはず、と思ひましてね。

小越先生：よく考えると、当たり前だよな。管理栄養士になろうという「志」があるんだから。

ゼン先生：そうなんです。専門家になるためには、として、学生としてというか、一人前の大人として対応するほうが大事だと思っています。

小越先生：そうだよ。もうすっかり成人になっているんだし、目的をもって大学で勉強しているんだからな。

ゼン先生：これからの管理栄養士は、食べられない患者さんの

栄養管理もする必要があります。十分に食べられない患者さんに、補食を提供して、がんばってくださいね、ではダメでしょう。ゼリーを食べてください、栄養剤を飲んでください、だけじゃダメでしょう。

小越先生：そうだな。それに、臨床の現場では管理栄養士の活動にいろいろ加算がついてきていて、医療側としても管理栄養士の仕事内容の変化を求めてきているのは間違いない。

ゼン先生：そうなんです。そういう管理栄養士さんになって欲しいから、こういう講義をしてもいいかも、そう思っています。「もっと臨床の現場の話をしてください」と書いてくれた学生もいますから。

小越先生：なるほど。実は、学生は、そういう講義を求めているんじゃないか？

ゼン先生：私はそう思っているんです。

胃瘻なんて…PEGなんて…

単に **水分・薬・経腸栄養剤**を投与する **管**
単なる**「管」**という認識に変えないと
胃瘻バッシングからは抜け出せない

認識を変えて

胃瘻を用いる**経腸栄養(内容・量)**に
もっと**真剣に向き合う**ことが**重要**

【今回のまとめ】

1. 地球が怒っています。暑すぎます。困ったことです。毎日、天気予報で全国の気温を予想していますが、最高気温は沖縄の那覇市が一番低いんです。沖縄って避暑地なんですか？避暑地は北海道でしょう？しかし、帯広も最高気温は36℃を超えています。
2. 電気代が値上がりしているけどエアコンが必要です。電気代の値上げにはロシアのウクライナ侵攻が影響しています。いつまで続くのでしょうか。終わりが見えません。さらに、世界中が戦争の準備をしています。困ったことです。武器を買うお金があったら、みんなの幸せのために使ってください。
3. 千里金蘭大学に来て、初めて知りました。オープンキャンパスって、大事な活動なんです。オープンキャンパスで受験する大学を決める学生がほとんどだとのこと。時代が変わっていることを実感しています。
4. 千里金蘭大学栄養学部の学生に、経腸栄養について、90分講義を6回、やりました。栄養管理の専門家として、これだけは知っていて欲しいという内容です。知って欲しい内容は相当多かったのですが。
5. 胃瘻問題についても、本格的な講義をしました。理解して、きちんと受け止めてくれている学生がたくさんいることがわかって、ホッとしながら、喜んでいきます。ゼン先生、がんばらなくっちゃ！